

## カリフォルニア大学デービス校での短期留学を終えて

平成28年3月16日から4月2日までの18日間、アメリカ・カリフォルニア大学デービス校のJon Ramsey教授の研究室に短期留学し、ストレス防御機構の解明に必要な技術として、エネルギー代謝に関連する酵素の活性や代謝産物濃度の分析手技を会得しました。実験室では、Kevork Hagopian博士からその技術を直接教示いただいたほか、修士課程の大学院生であるZhoeさんとともに実験を行い、今後の研究テーマに関して活発に議論をしました。

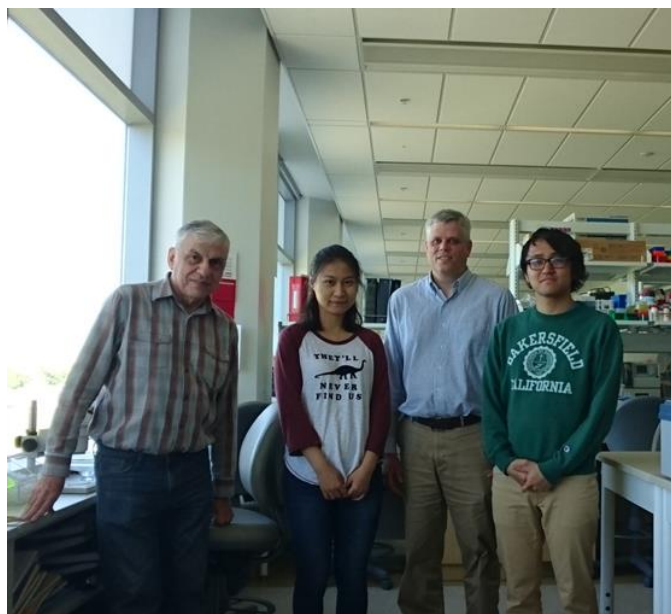
デービス滞在中はホームステイを利用したため、現地の家庭生活を垣間見る機会を得ることができました。また、休日には週2回開かれるファーマーズマーケットに足を運び、アメリカの文化や食生活を肌で感じる貴重な経験もしました。

このたびの留学は短期間ではありましたが、海外で研究活動を行うことへの不安感は軽減されました。また、さらなる英語力のスキルアップへの向上意欲が芽生え、私にとって大きな財産となるものとなりました。最後に、この留学を支援して頂いた指導教員ならびに食と農免疫国際教育センターの先生方の皆様に心より感謝申し上げます。

農学研究科応用生命科学専攻動物栄養生化学分野・博士課程後期1年 古川恭平



酵素活性の実験を行う様子



研究室の先生方  
(左からHagopian博士、Zhoeさん、  
Ramsey教授、古川)